

新1号館起工式を挙行

〓 五島育英会、東京都大 〓

延べ1.5万㎡、13年12月竣工



五島育英会（山口裕啓 理事長）と東京都大（中村英夫学長は16日、同大新1号館新築工事の

起工式を建設地の世田谷キャンパス（東京・世田谷区）で挙行了。同会や同大らの関係者が参列し、工事の無事完了を祈願した。教室などが入る延べ約1万5000平方メートルの施設を2期に分けて建設する。設計監理は東急設計コンサールタクト、施工は東急建設・大成建設JVが担当。13年12月下旬の竣工を目指す。



鎌入れの儀



鎌入れの儀



鎌入れの儀



鎌入れの儀



鎌入れの儀

起工式では、東急設計コンサールタクトの藤島茂取締役社長が齋鎌、山口理事長と中村学長が齋鎌、東急建設の飯塚恒生代表取締役社長と大成建設の山田文啓常務建築営業本部長が斎鋤を入れ、工事の安全を願った。

新1号館は世田谷区玉堤1-28-1にある世田谷キャンパス（敷地約2万3971平方メートル）の再整備事業の一環として、既存1号館跡地などに建設。RC造。2階と3階には教室



民とも調整する。節目節目の工期は厳しいが、守りたい。

4階建て延べ1万5000平方メートルの規模で、11年12月までの第一期と、12年10月から13年12月までの第二期で工事を進める。両期の間は既存1号館の1期完成部分への機能移転や解体に費やす。その後、跡地に2期部分を建設し、1期部分と繋げる。

にして、皆様に愛される建物にしたい」と期待を込めている。

設計コンセプトは「環境配慮型 総合教室・学生支援センター」複合施設。地下1階に教室・機械室、1階に学生支援センター・メインエントランス、教室、2階と3階には教室

東急・大成JV東京都大新1号館新築工事 木住野龍也所長のコメント。学生の動線を考えながらやる。近隣住

ラウンジ・研究室を配置し、4階は事務室として使用する。学生支援エリアなど機能別にゾーニングすることで、効率的な施設利用を図る。環境配慮策としては、自然換気窓による通風システムや陽射しを制御する外部ブラインドを採用し、空調エネルギーの負荷を低減。屋上や壁面には緑化を施すなど積極的に自然エネルギーを活用する。山口理事長は「地域環境にマッチした造り

にしたい」と期待を込めている。